



# 矢板市の老人給食は たくさんの市民力で支えられていた

老人給食が始まったのは昭和五十四年十月。目的は第一が安否確認、偏りがちな食事に変化をつけること。火曜、木曜のうちいずれか一回支給。対象者は重度障がい者、六十五歳以上の独居、高齢者世帯。

社会福祉協議会の横山和夫さん、斉藤由紀子さん、ボランティアの池田さん、斉藤さんに話を聞きました。

★きっかけは利用者の短歌だった

「週に一度支援の給食届けらる山百合一花の絵たより添えて」

広報やいたに載った、届ける方の気配り、受け取る側の感謝が胸にしみるこの一首に引かれ、老人給食に興味を持ち取材した。

調理ボランティアは十班で九十人弱。配送は六コースで約五十名。その他、野菜・米などを差し入れてくれる人、ケーキ提供、絵手紙のボランティアなど多くの人に支えられ給食が届けられている。

今までの調理支援の最高

齢者は八十三歳。当番の日

は、バスや歩きでやって来て、仲間と一緒に給食作りを担当していた。一人暮らしの彼女は、自分で野菜作りもする元気なパワーの持ち主だったが、最近体調を崩されやめられたとのこと。



カレーのいい匂いがしていました。

★調理支援をしているのは仲間同士の作業が楽しいから

調理時に気をつけることは衛生面は当然のことながら、喉に詰まらせたりするのが怖いので、野菜、魚を中心に小さく切ったり、軟らかく煮たり、コンニャクは使わないなど高齢者が対象なので特に注意をしてい

る。

極力手作りで、漬物も既製品は使わない。食欲をそめる様に色どりにも気をつかう。人気があるのはカレー、サバの味噌煮、煮物や胡麻和え、おひたしなど。

季節感も大事にし、二月にはしもつかれや節分の大豆を添えたり、三月には草餅を添えたり。お正月や敬老の日などの行事食には特に気を配る。また安否確認のために、給食手渡し時は体調を聞いたり、ご本人の様子を観察する。「おいしかったよ」「ありがとう」の言葉がとても嬉しい。

二十五年間調理に携わってきた斉藤さんは「やりがいがあるのはもちろん、料理を覚えられる、将来自分が受け取る側になるかもしれないなど、それぞれに理由はありますが、班の仲間と楽しみながらやれるのが続けられた一番の理由ではないでしょうか」と話してくれました。

最後に若い方や男性の皆さんの参加もお待ちしておりますとのこと。(K)

## 市役所ってどんなところをしているの？

### 子ども課

市の機構改革によって、社会福祉課と保健年金課、学校教育課の子どもに関わる部署が一緒になってできた「子ども課」

課長の益子陽子さんに何がどう変わったのか、また、現在抱えているさまざまな課題についてお話を伺った。

●子どもにポイントを絞ることで連携が強化された

「子ども課は、安心して子育てができる環境を整備するところ」と、益子課長。しかしながら、そこには乗り越えなければならぬさまざまな課題がある。なかでも、子どもひとり一人をトータルで支援するため、学校や幼稚園、保育園、医療機関などとの連携を強化することは最重要課題。

機構改革によって、子育て支援と母子保健が子ども課の中にそろったことで、子どもに関する問題を総合的に考え、対応していくための連携が取りやすくなったのは、大きな一歩だ。

●虐待防止は妊娠初期から

初期から支援することを考えています」

●母親も一緒に育っていく環境作りを

育児ストレス、核家族化により一人で育児する孤独感など、子育ての悩みを抱えた母親が多くなってきている。気軽に集まって、仲間作りをし、情報交換ができる子育てサロンなどを活用していただきたい。子育ては楽ではない。でも、子どもが日々成長していく姿を見るのは楽しいもの。母親が子どもと共に育っていくことが大事だという。

母性本能はもとも備わっているものではなく、子育てをしていく過程で育っていくものだという説もあるそう。そのためにも安心して子育てできる環境作りを、早い時期から進めていくことが子ども課の目指すところだ。

●困っている母親の駆け込み寺として

「子ども課には、家庭相談員、母子自立支援員（兼婦人相談員）、育児支援助産師がいますので、子どものことで何か困ったことがあったら遠慮せずに相談に来て下さい」と、益子課長。



「虐待防止は、早い時期解を求めている。」

この四月から、児童虐待防止周知のため新入学児童に、困ったときに相談できるよう、「子ども相談ダイヤル下敷き」を配るなどの広報活動を続けてきた。それが浸透してきたのか、昨年度ではなかった虐待にかかわる市民からの通報が、今年度になって何件かあった。ただ、「あいまいな情報では動けないので、子どものためだと思って、勇気を持って、より具体的に話をしていただければ…」と理解を求めている。

「虐待防止は、早い時期から考えていかななくてはなりません。妊娠した時点で、母親自身が戸惑いを感じていたり、子育てできる環境が整ってなかったりする事も多く、そのことが子育て不安や虐待につながる事もあると考えています。そのため、子ども課では、妊娠